

名古屋国際ビエンナーレARTEC全記録アーカイブ事業

学校法人多摩美術大学

概要

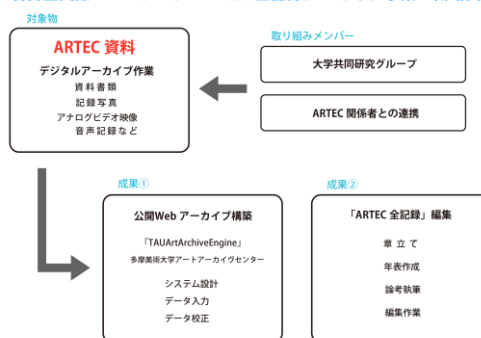
名古屋国際ビエンナーレARTECは、1990年代に世界最大規模のアート& テクノ・サイエンスの作品が集まる国際的なアート・フェスティバルだった。同展のディレクターズ・グループが国内外で開催されたメディアアートフェスティバルやアーティストについて行ったインタビューやリサーチ調査資料が、事務局が解散した後も多数残されている。それらの資料は、1980年代～90年代にかけて国際レベルで第一線級のメディアアート・シーンを知る上で貴重な資料である。全てのARTEC資料についてWeb上で検索可能な公開データベースを構築する。また日本のメディアアートの歴史をたどることができる「ARTEC全記録」資料集を編纂する。



第1回名古屋国際ビエンナーレARTEC'89 ポスター

体制／手法

名古屋国際ビエンナーレARTEC全記録アーカイブ事業 概略図



(文化的・社会的・経済的な意義)

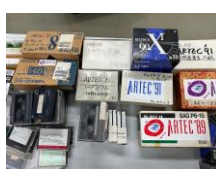
- ・ARTEC開催期間の10年間にわたって、メディアアートに関する国際的な展覧会、出来事等の整理から、初期メディアアートの概況が実証的に解明される。この分野において、日本が世界的にリードしていたことを示す貴重な資料である。
- ・アート表現を通じて、わが国のエレクトロニクスを中心にした技術立国日本を支えたハイテク産業と文化的な深い関係が明らかになる。ARTECで行われたアート&テクノロジーのあり方は、情報科学技術社会の進展とともに今後の指針となる。
- ・ARTECがたどった年表や作品資料は、メディアアート研究や、次世代のメディアアートの専門分野の人材育成に活用できる教育的に有用な資料教材となる。



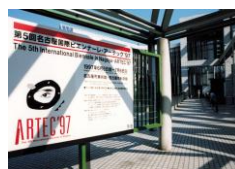
書類資料



アーティスト資料



カセットテープ音声資料



会場案内



公募展審査風景



VTR資料



シンポジウム



公募展表彰式

本年度の成果

- ・ARTEC資料の整理とデジタルアーカイブ作業
- ・メタデータリストの作成
- ・Webデータベースの設計と構築
- ・「ARTEC全記録」資料集の編纂 (公開方法)
- ・Webによる公開：概要説明と成果物のダウンロード (公開中)
- ・多摩美術大学メディア芸術コース 森脇裕之研究室Web

(残された課題)

- ・オリジナル資料の保存管理の問題
- ・デジタルデータ化を終えた現物オリジナル資料の保管問題。
- ・デジタルデータ化されたオリジナルは、廃棄処分してよいものなのかどうかは、これからの議論が必要。
- ・倉庫・保管場所の専有、保存状態の維持管理など。



<http://www.idd.tamabi.ac.jp/~moriwaki/artec/>

本事業の詳細はこちら